

国際日本学部 2023 年度夏期 海外ボランティア・プログラム

参加報告書（インドネシア・ブディルフル大学）

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について（200 字以上）

高校 3 年生の時から東南アジアの料理に興味を持って、その時から実際に現地に行ってみたく思っていました。そのため、東南アジアの国の中で留学先を探して、このプログラムが語学留学ではなくフィールドワーク中心のボランティア留学だったため参加しました。また、今までボランティア活動をしたことがなかったため、やってみたくと思ったこともきっかけの 1 つです。ボランティアの内容が、日本文化を伝えるワークショップとお弁当を作って配ることだったため、自分も楽しみながらボランティア活動をできると思い参加しました。

② プログラム内容について（各項目 200 字以上）

1. ボランティア活動・ワークショップについて

大きく分けて、2 つの活動をしました。一つ目が、日本文化を現地の中高生に教えることです。たこ焼きづくり、木目込み、書道、日本語、折り紙などを英語で説明しながら教えました。事前に日本から持ってきたものを使いながらワークショップ形式で行いました。特にたこ焼きづくりは盛り上がりました。2 つ目はお弁当作りです。全部で 3 回行い、最初の 2 回はインドネシア料理、最後の 1 回は日本料理を作りました。1 回につき 60 個ほどお弁当を作り、大学の前を通った人に配りました。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

インドネシア語、歌、ダンスの授業がそれぞれ週に 1 回ありました。インドネシア語の授業では、挨拶やよく使う単語など基本の言葉を学びました。この授業のおかげで、少しインドネシア語を覚えることができました。また、歌の授業では音楽の先生の伴奏に合わせてインドネシア語の歌を一曲練習しました。そして、ダンスの授業ではインドネシアの伝統的な曲に合わせたダンスを練習しました。楽しみながら簡単におぼえることができる振付でした。歌とダンスはお別れ会で披露するため、自主練もしました。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

1 泊 2 日でバンドンというジャカルタから車で 3 時間ほどの観光地に行きました。泊まったホテルはとてもきれいで朝食ビュッフェもおいしかったです。1 日目は、オールドタウンと呼ばれる繁華街をみんなで歩きました。ここは植民地時代の名残でオランダ風の建物が並んでいました。2 日目はバンドンの伝統料理を食べ、そのあとの伝統音楽のショーを見に行きました。これらはすべて先生とバディが同行してくれて、費用もプログラムに含まれていました。また、ツアー中も自由時間も十分にあったため、近くのモールで買い物したりネイルしたりしました。

③ 本プログラムを終えての学習成果・感想（200 字以上）

このプログラムを通して、私はとにかくチャレンジしようという精神が大切だと学びました。行くからには英語

力をつけたいと思っていましたが、インドネシアでは英語が日本と同じくらいしか普及していないため、バディと話さない限り英語は使えません。そのためバディと積極的に話して仲良くなることで英語をたくさん練習しました。そのおかげで、帰国前と比べると英語を話すことへの自信ができました。また、日本人3人、先生、バディたちでボランティア内容に関して打ち合わせする機会があり、それに参加したことが一番印象に残っています。バディたちの英語力は私よりもはるかに高く、日本人の中でも私は英語力が低い方であったため、自分が行くことに不安がありましたが行ってみると意外と発言できて楽しいと感じました。このように、留学中にしかできない体験を無駄にせず積極的に動くことが大切だと学びました。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

寮は大学から車で15分ほどで、毎日大学の車で送迎してもらえます。閑静な住宅街にあるため治安はとても良いです。寮は明治生のみで生活します。大学は西ジャカルタに位置していて、ここも治安が良く、大学内はきれいでした。

2. 食事について

夜ごはん以外は、毎日大学が用意してくれます。朝ごはんも昼ごはんも大学で食べます。だいたい出前で先生が注文してくれたお弁当を食べます。夜ごはんは自由で、帰り道にスーパーによって夕飯を買ったり、寮で出前を頼んだり、レストランで食べたりしていました。インドネシア料理はコメ料理が多く味付けは辛いものが多いです。日本食も現地ではとても人気で、吉野家や丸亀製麺といった日本のチェーン店もよく見かけました。

3. 交通手段について

大学の車で運転手さんが寮までの送り迎えや自由行動の日の送迎もやってくれました。また、grab という配車アプリでタクシーを呼んで移動するときもありました。

4. 通信環境について

SIMカードを日本で買って行きました。問題なく使えたので良かったです。また、寮にはWIFIがあるのでそれも使っていました。

5. 買い物事情について

インドネシアは物価がとても安く、だいたい日本の3/1くらいに感じました。日本人のなかで相談して、食料や生活必需品が足りなくなったら、先生にお願いしてショッピングモールに連れて行ってもらっていました。大体週に2-3回ほどモールかスーパーに訪れていたと思います。そこで食料、薬、お土産、服などすべて手に入りました。

6. 医療事情について

現地の先生が日本語対応の病院を紹介していました。私は行くことがなかったのですが、何人が体調を崩して病院に行っていました。24時間やっていて、夜中の対応も行っていました。また、冷えピタなどの医療品も日本製のものが売られていました。しかし、飲み薬は日本製のものは見なかったため、特に整腸剤や下痢止めなどは多めに持って行った方が良かったと思います。

7. その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。

寮に洗濯機はなく、自分たちでコインランドリーに行く必要がありました。寮から徒歩 10 分くらいのところか、モールのコインランドリーを使っていました。なかなか行く時間がなかったりして、服がギリギリ足りなくなりそうなきもありました。また現地では蚊が多いため、虫よけスプレーを使って刺されないように気を付けていたらほとんど刺されなあったです。途中で日本食を食べたくなることがあるので、みそ汁やお米、お茶漬けなどを持参すると役に立つと思いました。

以 上